

アイヌ口承文芸テキスト集 1 2
白沢ナベ口述 ユカイルパイェ
敵の村の美女を妻に迎えたシヌタツカウングル

採録・訳・註 中川裕

キーワード：アイヌ語、口承文芸、叙事詩

このテキストは、千歳市蘭越出身の白沢ナベ氏（1905-93：戸籍上は1906-）の語りによるもので、1991年4月6日に白沢氏の自宅において中川が録音した。整理番号はN9104061YRである。氏の言葉によれば *yukar irupaye* と呼ばれるものであり、*yukar* の散文語りという意味で、女性が節をつけて *yukar* 「英雄叙事詩」を語ることに禁忌のあったらしい千歳地方では、女性による *yukar* の語りスタイルとして確立していたものと思われる。沙流地方にも *yukanrupaye* という名称で同様のものがあり、節をつけて語られる男性の *yukar* とは異なる文体的特徴や話の構造を持つ。おそらく男性の *yukar* をもとにして成立したが、その後別の発展を遂げたものであろうと思われる¹。このジャンルに属するテキストとしては、中川がアイヌ無形文化伝承保存会編（1982）『英雄の物語』において、木村きみ口述「シヌタツカ人の妹の自叙」を紹介した他、白沢氏口述のものとして三浦佑之編（2001）『叙事詩の学際的研究』（平成9年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書）において、「トゥムンチ ペンチャイ、オコッコ ペンチャイ-アイヌ語千歳方言叙事詩テキスト-」という表題で、同じ話の二つのバージョンを報告し、また、『千葉大学ユーラシア言語文化論集』10号（2008）において、「シヌタツカ人と石狩人」（N8808291YR）を紹介している。

¹ この点については、2009年7月に中国昆明で開かれた“Humanity, Development and Cultural Diversity” The 16th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences において、The Heroic Epic of the Ainu : Gender of Reciters and Styles of Recitation という題名で発表を行った。

あらずじ

私はシヌタツカに住む者であり、物心つくころからずっとひとりで暮らしていた。長じてからは山で狩りをして、ひとりでそれを食べていたが、ある年の朝、どこからか突き刺されるような、切りつけられるような気がしてしかたがない。家の中や家のまわりを見わたし、山の手前の狩場も、山奥の狩場も見わたしてみたが、人を切ろう、殺そうなどというものの影も形も見えない。そこで一晩考えた結果、これはどこからか私に戦いが仕掛けられる予兆に違いないと考えた。

「私の村に戦が来て、私の村の木一本でも傷つけられるようなことがあってはいけない。こちらから先回りして戦いをしかけよう」と思ったので、家に昔から伝わる、六本の紐できっちり縛られた箱を取りだし、その紐を切って蓋を開けた。すると箱の中から光が射して、天井がぱっと明るくなった。びっくりして私は仰向けにひっくり返ったが、「そんな弱いことでどうする？」と思ったので、起き上がって箱の中を探ると、神の鎧が入っていた。それを着て喉のところに留め金をカチリと留め、神から下された太刀を帯に刺そうとすると、太刀の鞘には雷神の像が彫られており、生きたカムイとなって目を見開き、尾を打ち鳴らしている。次に金の小さな笠をかぶってみると、笠のてっぺんには金のカッコウの像があり、それが生きた神となって尾をふりたて、鳴き声を響かせ、口から吐き出す黒いもやが、私の体を半ばまで取り巻く。

私は外に出て、踏舞をしながら憑神に祈りを唱え、私を襲おうとしている人殺したちの村へ運んでいくように頼んだ。すると、山奥の狩場から激しい風が吹きおろし、その風の先端に乗って、私は飛び上がった。風を切り、海を横切って飛んでいくと、どこかの村の入り江の口を下ろされた。そこは見知らぬところだったが、ポンレフという村であることがわかった。着いたのは日が暮れてからだったが、家の窓から漏れる光で、にぎわった大きな村であることがわかった。

上陸して村長の家と思われる大きな家のほうに行くと、中からにぎやかな酒宴の音が聞こえてくる。その家の右手にある家が気になったので、村長の家の上手に回り、裏を覗いてみると、美しい小さな家が建っている。そこへ行ってみると、家の中がとても明々としている。不思議に思って窓のところにいき、膝ですだれを押し開けて見てみると、美しい娘がぐっすり眠っていたのだが、その顔の輝きで、家の中が煌々としていたのだ。私は窓から入り込むと、服を脱ぎ棄てて寝具にもぐり込み、娘が胸をはだけて寝ていたので、その胸に触れた。娘はびっくりして目をさましたが、その後寝床を二度返し、三度返してふたりで睦み合った。私は初めて女の懐に入ったが、女というのは何と良いものだろうと思った。

その後、娘がこう言った。

「私の一族がシヌタブカに戦をしかけようというので、酒宴を催しています。そこからお酒をくすねてきますから」といって出ていき、片口一杯の酒を持ってきた。私は生まれて初めて酒というものを飲んだが、なんともおいしいので飲み干してしまった。すると娘はこう言った。

「私の姉はとても悪い心を持った女で、顔が細長く顎が突出して、笑うと口が耳元まで裂ける醜い女です。彼女は嫁に貰い手もないので、淫情の物狂いを起して、山の方を通る男たち、浜の方を通る男たちを巫術でおびき寄せ、それを兄さんが切り刻んで殺していました。ひどいことをすると思っていましたが、私一人ではどうすることもできませんでした」

それを聞いて私は鎧を身に着け、先ほどの大きな家のほうに行った。窓のすだれを膝で押し開けて中を覗くと、聞いた通りの醜い女がお酌をして回っている。男たちは刀を研いでおり、村長がこいつの刀はなまくらだの、こいつの刀はよく研いであるのと言って回っていたが、その男がこう言った。

「シヌタブカ人の噂がいかに高くとも、お前たちが大勢でかかれれば倒せる。シヌタブカ人の宝物をひとつでも手に入れば、それが戦さのお守りとなってくれるぞ」と、激を飛ばしていた。

私は怒りがこみ上げたので、窓の簾を真ん中から切り落として、中に飛び込んだ。すると中の者たちはしーんと静まり返ってしまった。私は酒樽をまたぐと、窓や戸口に向かってこう言った。

「私はヤウンクル（陸の者）だが、私一人が殺されてもレブンクル（沖の者）の憑神たちには、血が飲みたらないだろうから、私がこの大勢の者たちを殺せるように見守ってくれ。そうすればいつまでも血の酒の宴を終えることなく飲み続けることができるぞ」

そう言うとは私は酒樽の酒をぐびぐびと飲み干し、主賓の頭に叩きつけてこなごなに砕いた。そして村長に向かって刀で切りつけたが、かすった様子もなく、飛び去ってしまった。そこで私は家の中にいる者たちに向かって刀を振り回した。首を失った者、脚を失った者たちが草のように倒れ伏したが、脚を切られた者たちは「未熟者め！ 人は首を切ればすぐに死ぬが、脚を切られてもいつまでも生きているものなのだ」と、私をののしりながら倒れた。

私は下座に向かって燄を蹴り飛ばし、上座に向かって燄を蹴り飛ばした。すると山奥から激しい風が吹き下ろしてきて、戸口から窓から吹き込み、火のついた莫莖がまくり上げられて、舟の帆のように家の中を飛び回った。

村人たちは「酒宴をしていると思っていたら、どうして家が燃えているのだ？」と言いながら、火を消そうとして家の中に押し合いへし合いしながら入ろうとする。私はその首を片端から切り落とした。すると、村の下端で何かが破裂するような音が響き、新たな軍勢がやってくる

る様子だった。私は燃え崩れる家から寸前で飛び出し、家の周りに集まっている大軍勢に刀を振り回した。そのうちにどういいうわけか目の前が散り散りになっていき、わけがわからなくなった。

しばらくして意識を取り戻すと、私は村中を全滅させており、村長の頭頂の髪を手に巻きつけて、首だけを地面に叩き付けていた。驚いて首を投げ捨てたが、「さっきの娘も殺してしまったのではなかろうか」と思い、私が殺した者たちの遺体を調べたが、姿が無い。すると、地中からか空からか姿を現して、自分は人殺しの末裔だから殺せという。私は聞かぬふりをして自分の憑神に祈り、娘ともども風に乗って家に戻った。

大勢の敵と何年もの間戦っていたので、わが家のまわりには木が生え、つるが絡み合っていた。私は木を伐り、つるを払い、娘も家の内外を掃除して、すっかりきれいにした。そして私はその娘を妻として一緒に暮らした。狩りに行って獲物をたくさんとり、妻は畑仕事して二つも三つも倉を建てた。そのうちに男の子が生まれ、子供がたくさんできた。妻は娘たちに女の仕事を教え、娘たちは裁縫上手になった。私は息子たちに狩りの仕方を教え、魚獲りの仕方を教えた。そのうちに息子たちが大きくなると良い女性を嫁にもらい、娘たちも精神の良い若者を婿にして、私の家の周りに家を建ててやった。何を食べたいとも何を欲しいとも思わず暮らし、息子や婿さんたちが獲物をしとめて山を下りてくると、お祈りやイナウの削り方などを教えてやっているうちに、私も妻を年を取ったので、その話を語り残してこの世を去るのだと、シヌタプカの長者が語った。

解説

yukar irupaye「yukarの散文語り」に関しては、前出の「シヌタプカ人と石狩人」において詳しく述べたので、そちらにゆずることにするが、語りの形式は散文でありながら、ストーリーそのものはyukarであり、韻文らしい表現が随所に出てくる。本来韻文で語られるyukarを散文で語りなおしたのが起源と思われるが、中にはyukarの登場人物と筋立てを使いながらも、最初から散文として成立したのではないかと思われる話もある。

本編の特徴は次のように集約されるであろう。

1. 主人公は孤児である—これはアイヌの英雄叙事詩全体にみられる特徴であるが、本編ではそもそも主人公の生い立ちに関して何の言及もない。散文説話であれば孤児になった経緯などがどこかで語られるものだが、そういう説明を一切省いてしまえるのも、英雄叙事詩だからということになるだろう。
2. 主人公は戦いに巻き込まれる—これも英雄叙事詩全般にみられる要素だが、例によって

戦いの理由がよくわからない。ポンレブ軍は主人公ひとりしか残っていないらしいシヌタフカに、大軍を率いて攻めてこようとしているのだが、それは単にシヌタフカの宝物を得たいがためだけのようにも見える。しかし、アイヌ英雄叙事詩の常套的な展開から言って、それは主人公に親のいないことと関係しているのであろう。また主人公には戦いの経験が一度も無いのにも関わらず、その名がとどろいているらしいが、これも英雄叙事詩の約束事であり、生まれた時から特別な力が備わっているという、こういった話一般にみられる設定である。

3. yaunkur「陸の人」対 repunkur「沖の人」の戦い。

これはアイヌ英雄叙事詩全般の特徴というより、現在では北海道西南部の伝承である yukar と呼ばれるものの特徴だと考えられている。これについては奥田統己「アイヌの英雄叙事詩における英雄像の地域差」本田優子編（2010）『伝承から探るアイヌの歴史』（札幌大学附属総合研究所）を参照のこと。

4. 敵側の美少女が味方になり、妻となる—これもまた、多くの英雄叙事詩に出てくる常套的な展開である。有名なものとしては、金田一京助が鍋沢ワカルパ他の人たちから聞き取った「虎杖丸の曲」という物語に登場する虚病姫（Nisaptasum）がある。彼女の場合には、まだ見ぬ主人公 Poyyaunpc が兄と戦うことを見越して、仮病を使って兄を引き留め、後にそれがばれて折檻されているところを Poyyaunpc に助け出されて妻となるという展開だが、本編ではまず主人公と肉体関係を結んでから、その悪行を憎んでいた兄と姉を裏切るということになっており、より理解しやすい（？）展開になっている。

5. 戦いの中で主人公が忘我状態となって暴れまわる—これも英雄叙事詩ではおなじみの場面。気が付くと敵の大將の首だけを持って、振り回して地面に叩き付けていたとか、自分の味方になってくれた美少女も自分が殺してしまったのではないかと思って探し回るといったところも、常套的な展開である。

このように、本編はこれまでに知られている yukar の名場面集のような風情を見せているが、ポンレブの住民を一掃し、妻を連れて帰郷した後は、一転して典型的な散文説話のエンディング—子供に恵まれ、何不自由ない晩年を過ごして、事の顛末を語り残してこの世を去るという展開になる。これは yukar irupaye としての特質であろう。すなわち、yukar irupaye は単に yukar を散文に語り下したのではなく、本編のように yukar の内容を散文説話の枠組みの中に押し込んだような形式になっていることもあるのである。この yukar の散文語りの実態については、まだ十分な研究がおこなわれているわけではない。今後引き続きそれを解明していきたいと考えている。

テキストの表記法について

アイヌ語テキストの表記中、= (イコール) は、その前あるいはその後にあるものが人称接辞であることを示す。_ (アンダーバー) を付したものは、その前の音素が交替して別の音素になっていることを示す。例えば、an w_a → an ma, h_i や y_ak のような例では、h や y が脱落することを示す。...とあるのは、単なるポーズ、言いよどみを表すのではなく、その後で明らかに別の語句に言い直したと思われる場合に付す。その際、*re ... などのように*を添えたものは、単語が言いさしになって、不完全な形で終わっていることを示す。なお、こうした言いさし・言いよどみは、それを示しておかないと、どこまでを言い直しているのか判断がつかなくなるような場合にのみ示してある。<ne>のように<>で示したのは、佐藤知己氏が「有音休止」と呼んでいるものであり、おもに発話の最後の音節を繰り返す形で、次の発話までの間をとる語用上の形式である。

註は各ページごとに脚註の形で示した。脚註等における N8808291.FN のような記号は、私の採録した資料の整理番号である。N(白沢ナベ) 88 (1988年) 08 (8月) 29 (29日に録音した) 1 (1本目のテープに収録されている) ことを示す。(ピリオド) 以下の記号は、YR (ユカラ)、FN (フィールドノート) 等を示す。

参照文献

鍋沢元蔵 (1969) 『アイヌの叙事詩』 門別町郷土史研究会

バチラー、ジョン (1938) *An Ainu-English-Japanese Dictionary*, 第4版, 岩波書店 (「バチラー辞書」と略称)

本文

Sinutapka un kur a=ne wa,	私はシヌタプカの者であり
Sinutapka un kur a=ne korka,	私はシヌタプカの者であるが
sinen ne patek an kur ² a=ne wa	ずっとひとり暮らしの者で
an=an ruwe ene an h_i ne wa,	あって
tane anakne ponno poro=an hi wano,	もはや少し大きくなってから
pon hekaci a=ne wa an=an pe ne a korka,	小さな少年だったのだが
poro=an pe ne kusu,	大きくなったので、
orowano ekimne=an w_a	それからは山に行って
yuk cikoykip ka kamuy cikoykip ka a=rura.	シカやクマを運んだ。
a=koyki wa a=rura wa <wa>,	獲っては運んで
a=e p ne korka sinen ne a=e p ne kusu,	食べていたが、一人で食べていたので
poronno ikasma wa kusu,	たくさん余ったので、
cise or_ ta ka a=satke kor	家の中にも干して
an=an ruwe ene an h_i ne akusu,	いたところ
sineanpa kuneywa hopuni=an akusu,	ある年の朝、起きてみると
tane ney wa ka a=i=otke noyne	どこからか突き刺されるような
a=i=tawki noyne humas wa,	切りつけられるような気持ちがして
wen isitoma toy isitoma	えらく不安に
a=ki ruwe ene an h_i ne wa kusu,	なったので
"hemanta i=rayke kusu	「何が私を殺しに
ek wa an pe ne hine	来ようとしていて
ene humas h_i an?"	こんな気分なのだろうか？」
sekor yaynu=an kusu,	と思ったので
cise onnaya epitta	家の中じゅう

² **sinen ne patek an kur** : 散文説話であれば、疫病や **topattumi** 「夜襲」などによって村が全滅し、ただ一人残った赤ん坊を何かの **kamuy** が育てていたというような設定がどこかで明かされる場所だが、この話では一人で暮らしている理由も、何がこの主人公を見守って育てていたのかも、明らかにはされない。それはとにかくアイヌの英雄叙事詩の主人公は必ず孤児であるという前提で話が展開されることになっているからであり、特に理由を語る必要が認められないからである。

sowsut wano ihunara=an wa	隅から隅まで探して
inkar=an korka	みたが、
ituye noyne an pe irayke noyne an pe	人を切ろう殺そうとしているものなど
sinep ka sirus ³	ひとりもいる様子が
ruwe ka isam w_a kusu <su>	ないので、
cise okari inkar=an ruwe ne korka,	家のまわりを見渡してみたが
cise okari ka nep ka irayke kuni p	家のまわりにも人を殺そうというものは
urari poka taskori ⁴ poka	霧ほども霜ほども
sirus ruwe ka oar isam w_a kusu,	影も形も無い。
konto, こんどだ (笑)。 ⁵	konto 「こんど」
sisam itak もまぜてもいいね。	sisam itak 「日本語」
konto kimun iwor so,	こんどは山の狩場
sanke kenas ka	手前の木原も
kenas so kurka a=sikkuspare.	木原の上も見わたして
inkar=an korka,	みたが、
ituye kuni p irayke kuni p	人を切ろう殺そうとするものなど
sirus ruwe ka isam wa kusu,	影も形もないので
kimun iwor so iwor so kurka a=sikkuspare.	山奥の狩場、狩場の上を見わたして
inkar=an korka,	みたが、
irayke kuni p urari poka taskori poka	人を殺そうというものは霧ほど霜ほども
sirus ruwe ka oar isam.	影も形も無い。
orowa tanto tori a=castustekka	そこでその日一晩立ち尽くして
a=eyaykowepeker	考えた。
yaykowepeker=an w_a inu=an ⁶ awa,	考えてみたところ

³ **sirus** : **sir** 「地面」 **us** 「～につく、～に生える」。「地面に生える」ということで、「いる」「見える」ということになる。

⁴ **taskori** : **taskor** は霜をもたらすような寒気。**yukar** の登場人物のような超人的な存在同士が戦うと、そこに **taskor** が起こって、雪模様になったり、霜がついたりするという。

⁵ **konto** こんどだ : **konto** は「今度」という日本語起源の語だが、白沢氏に限らず多くの人が多用するので、ここではアイヌ語として扱っている。ただし、白沢氏自身はやはり日本語だという意識を持っているらしく、このようなことを言っている。

⁶ **wa inu=an** : **inu** は「聞く、味わう、感じる…」だが、**V wa inu** で「～してみる」と訳せるような意味を表す。V の位置に **ihunara** 「探す」のような視覚を用いる動作が来る場合には

ney wa ka a=i=kotumisanke kuni	どこからか私に戦いが仕掛けられる
etokoho a=ekamke humi ne nankor	ことを予知したのであろう
sekor yaynu=an kusu,	と思ったので、
orowa suke=an w_a ipe=an hine	そこで料理を作って食事して
orowa cisina ruwe pirka suwop	それからしっかりと縛った箱が
an w_a kusu,	(昔から家に) あったので
"a=kor kotanu tumi oek wa	「私の村に戦さが来て
sine cikuni poka a=i=kowente hike	立木一本でも傷つけられたら
nep rakaha ne ya,	何の甲斐があろうか
na nep rakaha ne ruwe ka isam."	何の甲斐も無い」
sekor yaynu=an kusu,	と思ったので
"ituypa kuni p ikoyki kuni p	「人を切ろう殺そうとする者たちが
arki etokoho ta	やって来る前に
etokoho a=tusmak wa <wa>	先回りして
ikoyki p kotan, ituypa p kotan,	悪党の村人殺しの村を
a=hunara yak tasi pirka nek."	探すべきであろう」
sekor yaynu=an kusu <su>	と思ったので、
cisina ruwe pirka suwop	しっかりと縛られた箱を
a=etaye hine <ne>	引っぱり出して
iwan putaha a=ukaetuye ⁷ .	六重の蓋をまとめて切り
putaha a=etursere akusu,	蓋を落とすと
cise kankotor makkosanu.	家の天井がぱっと明るくなった。
newaanpe a=eramutuy wa,	それにびっくりして
ape etok ta kuttokono horak=an ...	私は上座で仰向けに崩れた…

wa inkar という表現になるが、それ以外の感覚が関連するような動作に対しては wa inu となる。

⁷ iwan putaha a=ukaetuye: 「あの、iwan atuhu 大事な大事なものぼり入っているもの、iwan atuhu ったら、むとこもしばってあるような話ぶりだよ。あの、iwan atuhu a=ukaetuye iwan putaha こう a=caka したっていうんだから」(N8806201FN)。これはこの話の解説ではないが、先祖伝来の六重の紐でしっかりと縛られた箱を開けるという常套的な場面について語っている。iwan atuhu a=ukaetuye 「六重の紐を切り落と」し、それから蓋を開けるという展開のほうが理にかなっているので、ここでも本来は putaha 「蓋」ではなく、atuhu 「紐」というはずのところだったのではないかと思われる。

hokus=an a korka,
 "ene hawke hike ney ta e=arpa wa ...
 ney ta ... ney ta e=arpa yakka
 e=hawke hike, nep rakaha ne ya?"
 sekor yaynu=an. matkosanu=an h_ine
 suwop asam a=tekkarpare
 inkar=an akusu <su>
 kamuy hayokpe o wa
 oka ruwe ene an h_i ne hine,
 kamuy hayokpe a=esikari hine,
 a=esikurkasam'opirasa hine <ne>
 a=kotparo ta uruki humi⁸ kikkosanu.
 それも **sisam itak** だべね⁹。
 (中川) いや、違うんじゃない。
 uruki humi kikkosanu.
 newaanpe a=esampekese
 ciskot kane humas korka,
 "ene pak an pe ene hawke hike,
 ney ta e=arpa wa e=siknu wa
 e=hosipi easkay pe he an?"
 sekor yaynu=an kusu
 a=mi ruwe ene an h_i ne wa <wa>
 kamuy ranke tam a=kutpokeciw kusu,
 a=uk wa inkar=an akusu,
 kamuy ranke tam ...
 kamuy ranke tam sirka ka ta <ta>

ひっくり返ったけれど
 「こんな弱虫がどこへ行って…
 どこへ行ったとしても
 お前が弱かったら何になる？」
 と思って、ぱっと立ち上がり
 箱の底をかきまわして
 みると、
 神の鎧が入って
 いて
 私は神の鎧をつかむと
 自分の体にうちはおって
 むなもとではまる音がカチリとする。
sisam itak 「日本語」
 はまる音がカチリとする。
 その音に心臓の端が
 苦しい思いをするけれど
 「そんなにも弱かったら
 どこへ行っても生きて
 帰ってくることができようか？」
 と思ったので
 私は(鎧を)着て
 神から下された太刀を帯に刺そうと
 手にとってみると、
 神から下された太刀…
 神から下された太刀の鞘の上に

⁸ **uruki humi** : **ruki** は「～を飲み込む」。 **u-ruki** は「互いを・飲み込む」ということになるが、これはボタンのようなもので留めることを指すと考えられている。

⁹ それも **sisam itak** だべね : 直前に言った言葉が日本語だろうと言っているのだが、実際には日本語起源と思われるような語は言っていない。おそらく **kikkosanu** 「カチッと鳴る」の **kik** という擬声語幹のことを指しているのだと思われる。

kannakamuy sarkonoye	雷神が尻尾を巻きつけ
seppa rarka kokirawrikipuni kane <ne>	鏝の縁に向かって角を振り上げ
siknu kamuy ne siknu pito ne	生きたカムイ、生きた神となって
inkar_ ru ko caynatara <ra>	大きく目を開いてにらんでいる。
sarerep ¹⁰ humi wenruy kane,	尾を激しく打ち鳴らしている。
orowa, *ra ... kane pon kasa a=uk wa	それから金の小さな笠をとって
a=sapaunu wa inkar=an awa <wa>	頭にかぶってみると
kane pon kasa kasa kitay ta	金の小笠、笠のてっぺんに
kane kakkok siknu pito ne	金のカッコウが生きた神となって
siknu kamuy ne sattarara.	生きたカムイとなって尾を振り立て
inkar_ ru ko caynatara.	大きく目を開いてにらみ、
rek haw konna carototke <ke>	鳴く声が響き渡る。
paroho wa ohetke urar kunne urar	口から吐き出すもや、黒いもやが
a=noski pakno	私の（体の）半分まで
atce ¹¹ urar konoypa kane <ne>	もやがとりまいて
wen iyokunure toy iyokunure a=ki kor,	私はたいそう驚きながら
orowa soyne=an kusu ...	外に出るために…
soyne=an h_ine soyun mimtar ¹²	外に出て、表の庭
mimtar ka ta soyne=an hine <ne>	庭に出て
mimtar ka ta horipiripi	庭で踏舞をした。
terketerke=an hawe ene an h_i <ni>	飛び跳ねながらこう言った。
"tumunci kamuy rorunpe kamuy,	「戦いの神、戦闘の神よ。
makanak ne wa	いかなるわけか
arikinne a=i=tuypa noyne	ことさらに私は切られるような
a=i=rayke noyne yaynu=an w_a	殺されるような気がして
wen ruwe ne na.	しかたがない。

¹⁰ sarerep : sar 「尾」 e- 「～で」 rep 「拍子をとる」

¹¹ atce : kunne urar atce urar 「黒いもや、？なもや」という形で対句でも使われるが、atce がどういうことを指すかは不明。

¹² soyun mimtar : aun mimtar 「内の庭」は sem 「土間」内の地面のことを指す。それに対して soyun mimtar 「外の庭」は家の前あたりを指す。

ituypa p utar a=kor kotanu	人切りどもが私の村に
oyap w_a sine cikuni poka <ka>	上陸してきて、たとえ立木一本でも
a=i=kokekke a=i=kowente wa ne yakne	折られ、荒らされたならば
<ne> wen ruwe ne kusu,	大変なので
ituypa p kotan ... ituypa p kotan	人切りの村
ihumpa p kotan i=orura wa i=korpora yan.	破壊の村に私を運んで行っておくれ。
tumunci kamuy i=sermak orke	戦いの神よ、私の背後を
oinkar wa i=korpora yan."	見守っておくれ」
sekor itak=an kor,	と言いながら
terketerke hoyupu ... horipiripi=an akusu,	跳ねまわり、踊っていると
kimun iwor so iwor so ka wa	奥山の狩場、狩場の上から
tan ruy rera sipoye rera,	激しい風、つむじ風が
cisansanke hine <ne>	吹き下ろしてきて
newaan rera etok	その風の先端に
a=i=ekosnekurpuni kane hine orano,	軽く乗せられて
hunak un a=i=ehoyupu wa	どこかへ飛んで
arpa=an humi	行く音が
a=ekisarsutu mawkururu	耳元で風をまき
ciwkururu ayne <ne>	吹きすさぶ
atuy tom a=osan hine <ne>	海面に降りて
atuy tomotuye	海を横切り
konto nea rera hoyupu p ne kusu,	その風が走っていくので
a=o wa <wa> a=i=ehoyupu wa	私はそれに乗り、それに連れられて
atuy tomotuye arpa=an humi	海を横切っていく音が
a=ekisarsutu komawkururu	耳元で風をきり、
kociwkururu ayne	吹きすぎていくうちに、
tane anakne a=kor kotanu	もう私の村
a=kor mosir a=osirmukere.	私の国は見えなくなり
oya kotan a=koyayrikipuni kane	よその村が水平線から上がってきて
a=i=ehoyupu wa arpa=an	私はそこへ運ばれていった
ruwe ene an h_i ne hine <ne>	そして

inkar=an kusu,	見ると、
oya kotan kotan tomari tomari...	よその村の、村の入り江
tomari kampar a=i=epekare <re>	入り江の入り口に向かって
a=i=ehoyupu wa arpa=an	飛ばされた
ruwe ene an h_i ne hine,	そして
tomari kampar kampar ka ta	入り江の入り口の上に
a=i=ranke ruwe ene an h_i ne hine,	私は降ろされて
orowa inkar=an hike,	見ると
nepenepo a=eramuskari p iki korka,	まったく知らないところなのだが
Ponrep ¹³ sekor a=ye kotan	ポンレブという村
ne kotom no a=esanniyo.	であるように思った。
nepenepo kotanu inne wa	なんとも村のにぎわっている
siran y_a ka a=eramuskari.	様子であるか。
kotanu inne utari inne.	村はにぎわい、人々も多く
kotan kesehe homaritara.	村の下端がかすんでみえ
kotan pakehe homaritara kane	村の上端がかすんでみえるほど
inne kotan an ruwe ne noyne siran.	にぎわった村である様子だ。
cise or wa soyne ... sune imeru kusu	家からもれる灯火の光で
*a=erama ... sirkunne wa	日が暮れてから
oro ta sirepa=an ruwe ne korka <ka>	到着したのだが
inne kotan an katu a=eramuan.	にぎわった村であることがわかる。
kunne ne korka ki ¹⁴ katu ene an h_i.	暗いけれどよくわかる。
cise or wa puyar kari soyne ...	家の窓からもれる
cise ... ape imeru よ。	家…火の輝きよ。
ape imeru soyunitara ruwe	火の輝きがもれ出ている
inne kotan poro kotan ne	にぎわった村、大きな村で

¹³ Ponrep : この地名は北海道教育委員会編 (1985-87) 『アイヌ民俗文化財 (ユーカラシリ
ーズⅦ - IX) 踊ろう跳ねよう物語』に出てくる。ただし、この話では主人公の味方側である。
なぜ誰にも教えられないのに村の名前がわかったのかというと、この村と両親の間で過去に戦
いがあり、そのために孤児になったといういきさつがあったからだと考えられるが、本編では
それについて何の言及もない。

¹⁴ ki : 代動詞。ここでは a=eramuan を指している。

ruwe ne noyne siran	ある様子
ruwe ene an h_i ne hine,	であり
orowa tomari ... tomari kampar	入り江の入り口
kampar kari yan=an hine,	入り口から上陸して
kotankorkur unihi ne kuni a=ramu	村長の家であろうと思われる
poro cise cise tom unno yan ¹⁵ ruwe ne hine	大きな家のほうへ上がっていき
kari yan=an hine <ne>	そこを通過して行って
inkar=an akusu, nepenepo <po>	見ると、なんとまあ
kanto kotor cesisuye kane an	天にそびえるような
poro cise ne ruwe ne wa,	大きな家で
eun iku kanhaw wenruy	そこからにぎやかな酒宴の声
ipe kanhaw wenruy.	宴の音が聞こえてくる。
nepenepo inne utari uekarpa wa,	なんとも大勢の人々が集まって
poro cise sikte no kane	大きな家いっぱい
iku kor oka ruwe ene an h_i ne.	酒宴をしている
ruwe a=nukar kor cise esisoun ¹⁶	様子を見ながら、その家の右手に
(中断)	
cise esisoun a=konram konna	家の右手の様子が
siturituri ki wa kusu,	気になったので
cise erupsi ta arpa=an w_a	家の上手に行って
inkar=an akusu	みると
cise osisoun pirka pon casi	家の右手にきれいな小さな館が
as ru konna mewnatara.	堂々と建っている。
“pirka casi pon casi ne korka pirka casi.	「美しい館、小さな館だが美しい館
eun arpa=an w_a inkar=an rusuy.	そこへ行ってみたい。
nep oro ta an usike ne wa	何がそこにあって
ene pirka ruwe an?	どのように美しいのか？
e=arpa wa inkar (kusu) ¹⁷ ne.”	行ってみよう」

¹⁵ yan : yan=an という形が期待されるところだが、yan と言っている。

¹⁶ esisoun : 「右座の方へ」。家の中では神窓から見て炉の右側。家の外にも拡張して考えられる。この地域では家の北側にあたる。

sekor yaynu=an kusu <su>	と思ったので、
oro ta arpa=an hine inkar=an akusu,	そこへ行ってみると、
わかる？	
(中川) うん。わかるよ。	
oro ta arpa=an hine inkar=an akusu <su>	そこへ行ってみると、
cise onnay arikinne maknatara wa	家の中はとても明々としている
siran wa kusu <su>	様子なので、
"neun ne wa ene cise onnay	「なぜこのように家の中が
maknatara wa siran ruwe ene an h_i."	明々としているのか」
sekor yaynu=an kusu <su>	と思ったので、
puyar or_ ta arpa=an hine	窓のところへ行って
pirka cise poro cise っていうんだけども	pirka 「美しい」 poro 「大きい」 cise 「家」
やっぱり ki cise らしいの。	ki cise 「茅葺の家」
だから puyarotki a=kokkaeotke ¹⁸	だから窓のすだれに膝を突っ込んで
a=kakoturi wa inkar=an akusu <su>	隙間を開けて見てみると、
pirka ponmenoko mokor wa an.	美しい娘が眠っていた。
mokonno p sone	ぐっすりと眠って
mokor wa an ruwe ne korka,	眠っているのであるが
nan imekihi にかって ¹⁹	顔の輝きのおかげで
cise onnay maknatara ruwe ne.	家の中が明々としているのだった。
そんなにきれいなものいるんだべか (笑)。	
nan ipeki ²⁰ にかって cise onnay maknatara	顔の輝きで家の中が煌々としていた
ruwe ne anan ²¹ akusu,	のだったが

¹⁷ 何か詰まったような発音になり、**kusu** とははっきり聞こえないのだが、文脈から、そのように言うつもりだったのだろうと判断した。

¹⁸ **kokkaeotke** : **kokka**「膝」**e**「で」**otke**「～を突く」。すだれの茅の間に膝を差し込んで大きくすきまを開ける。膝で開けた隙間から、どうやって覗き込むのかと思うが、そういう意味だということである。

¹⁹ **nan imekihi** にかって : **imekihi** と言っているが、この後で **nan ipeki** と言っているので、おそらく **ipeki** というつもりだったのだろう。「にかって」は、「～のせいで、～にやられて」という意味の北海道方言。

²⁰ **nan ipeki** : ここではこう聞こえるが、別の機会 (N9003061FN) に複数回 **nan nipeki** 「顔の輝き」と言っているので、おそらく何か混乱して **ipeki** と言ったと思われる。

orowa ekohopi a=hoppa ka niwkes.
 ahun=an w_a
 ene ne hi a=nukar_ rusuy wa
 orowa puyar kari ahun=an
 ruwe ene an h_i ne korka <ka>
 mokonno wa an pe ne kusu,
 oro ta arpa=an hine, sipita=an w_a
 orowa upsoro a=oahun
 ruwe ene an h_i ne akusu,
 tanepo mos pe sikopayar.
 iyokunure kor mos
 ruwe ene an h_i ne hine orowano,
 tanepo menoko upsoro a=oahun w_a
 inkar=an ruwe ene an h_i ne wa,
 orowano なにかした話だか (笑)。
 そうだあの rerari も出していたっていった。
 女が rerarihi も出しているもんだから、
 そうして寝ているもんだから、
 ひとりであるもんだからそうやっていた。
 そしたからその
 ahun=an w_a sipitano=an w_a ora,
 rerari a=cositaro²² したので
 eun mos ruwe ene an h_i ne wa,
 orano iyokunure.
 "isirkurantere enepo hetap
 mokor=an ruwe ne ya
 ray=an ruwe ne ya ne wa,

そこで、そのまま去ってしまいがたく、
 家に入って
 どんな様子か見たく思っ
 窓から入り込んだ
 のだが、
 よく眠っているの
 そこへ行って、私は服を脱いで
 それから彼女の懐に潜り込んだ。
 すると
 そこではじめて目を覚ましたようで
 驚きながら目を覚まして
 そして
 私は生まれて初めて女の懐に入って
 みて

orowano 「それから」
 rerar, -i 「胸、乳房」

家に入って素っ裸になって
 胸を触ったので、
 それで目をさまして
 びっくりした。
 「まあ驚いた。こんなにまで
 眠っていたのやら
 死んでいたのやら

²¹ anan : 沙流方言の aan にあたる助動詞。後から知ったことによって、状況が理解されたことを表す。ここでは、家の中が明るいのはなぜかということについて、娘の顔の輝きの故であったことがわかった、ということを表している。

²² cositaro : 日本語北海道方言ちよす「いじる」の連用形に・taro をつけてアイヌ語の動詞化した形。

okkayo ahun hi ka	男が入ってきたのも
a=eramuskari noyne an=an h_i."	しらずにいたなんて
sekor hawean kor ...	と言いながら、
ruwe ene an h_i ne korka <ka>	いたが
orowa tu mokor sotki a=ukokiru ²³ .	それからともに寢床を二度返し
re mokor sotki a=ukokiru.	寢床を三度返した。
tanepo menoko upsoro a=oahun w_a,	初めて女の懐に入って、
menoko sekor a=ye p pirka p ne	女というものはいいもの
rokoka anan ²⁴ hi a=eramuan	だったのだということがわかった
ruwe ene an h_i ne h_ine,	そして
orowa nea katkemat ene hawe an h_i.	それからその女性がこう言った。
"a=utarihi Sinutapka un	「私の一族がシヌタヅカに
tumi yanke kusu ne	戦争をしかけよう
sekor haweoka kor, sakekar wa	と言いながらお酒を醸して
a=yupihi sakekar wa	兄さんがお酒を造って
iku kor oka ruwe ne kusu,	酒宴を開いているので
arpa=an y_akne,	そこへ行ったら
sake a=eikka wa ek=an kusu,	お酒をくすねてきますから
a=eikka wa ek=an yakne,	お酒を盗んで来たら
a=e=kure kusu ne na."	飲ませてあげましょう」
sekor hawean kor soyne hine <ne>	と言いながら表に出て行って
arpa akusu ora etunup ²⁵ sikteno kane	行くと、片口いっぱい
sake oma hine kor wa ek wa <wa>	酒を入れて持ってきて
tuki or omare wa i=kore.	盃に注いで私にくれた。

²³ tu mokor sotki a=ukokiru～：「2回も3回も上がったってということゆっているのよ。女の上さ」(N9104061FN)と説明した後、「汚くまでゆいたくないから」という言葉を付け加えている。セックスを描写する婉曲的な表現ということであろう。

²⁴ rokoka anan: 前出の anan と同じ。rokoka は形の上では anan の複数形だが、単独で、またこのように anan と組み合わせて使うこともある。意味は anan だけの場合と同じと思われる。また韻文中では rokokay という形でも出てくる。

²⁵ etunup：「片口」。一か所に注ぎ口のついた木製漆塗りの酒器。盃に酒を注ぐために用いられる。

sake sekor a=ye p ka a=ku ka eramuskari.

a=nukar ka eramuskari.

sinen ne an kur a=ne wa,

ki wa an pe a=ne awa,

nepenepo keraan w_a humas y_a ka

a=eramuskari.

keraan w_a etunup sikteno an sake

a=ku wa okere.

そんなに酔っ払うもんならもう動けないべさ。

初めて飲んだっていうもの。

orowa, hayokpe tuy or a=osikiru hine

sipine=an hine soyne=an w_a <ma>

nea hoski oro ta ek=an poro cise

mosir pak cise poro cise an ruwe ne.

oro ta ek=an w_a,

suy at puyarotki a=kokkaeotke wa

a=kakoturi wa

ka utur kari inkar=an h_ine

emus unukarpare hawe ene an h_i.

"tan kur kor emus een ruwe ne.

tan kur kor emus enukar_ ruwe ne kusu,

pirkano a=ruyke yak easir_ ne ruwe ne na."

sekor kane haweoka

ruwe ene an h_i ne hine,

haweoka kor, emus unukarpare kor oka.

"Sinutapka ta Poyyaunpe

eytasa asuruhu as wa,

sinen ne an kur_ ne yak a=ye pe ne

asuruhu hunak wa as hine,

Sinutapka un kur kor

酒というものは飲んだことも

見たこともなかった。

私は一人きりで暮らしていたので

見たこともなかったが

なんとおいしいものであるのか

たとえようもない。

おいしいので、片口いっぱい酒を

飲み干してしまった。

それから鎧の中に身を入れて

身支度を整えて外に出て

例の、先に来た大きな家

山のように大きな家があった。

そこにやってきた。

また簾を膝で押し開けて

茅を開いて

茅の間から見てみると

刀を見せ合っている声がある。

「こいつの刀はよく研いである。

こいつの刀はなまくらなので、

よく研がなければだめだ」

という声が

していて

そう言いながら刀を見せ合っている。

「シヌタフカのポイヤウンペは

とても評判が高いが

一人で暮らしているというのに

どこで噂が立ったものか

シヌタフカ人の

coy pep²⁶ sinep kor kur ka
tumi sermak²⁷ ne a=kor easkay pe ne.
tumi sermak ne an pe ne na.
arikiki wa Sinutapka un kur_
rayke wa arki yan."
sekor kane hawean kor,

(少し間が空く)

iomare kusu omanan katkemat
a=nukar h_ike <ke>

kama kama している²⁸。どうする？

本当に kama していた。

妹が悪口。姉の悪口。

(中川) 寝てたのは妹ね。

(白沢) うん。寝ていたのは妹。

(中川) 姉が悪いやつなのね。

(白沢) うん。姉が悪いやつ。いうよ。またゆいなおしかって、も、ゆいたいけどもね。忘れた。妹で、うちの姉っていうもの悪い姉で、その山から通る人もおびき出し、浜の上歩く人も上げて、かたっぱし兄貴殺すんだ。

(中川) はい、それ aynu itak お願いします。

(白沢) その殺すんだとこからいうの？

(中川) その悪口いうところから、ゆって。

"a=kor sapo wen sampe kor pe ne wa,

宝物をひとつでも手に入れた者は

それを戦いのお守りにできる。

戦いのお守りになるということだ。

がんばって、シヌタフカ人を

やっつけて来い」

などと言いながら、

酒を注いで回っている女性を

見たが

kama 「話を飛ばす」

「私の姉は悪い心を持った者で

²⁶ coy pep : 直訳すれば「食器」だが、sintoko 「行器」、patci 「鉢」、tuki 「盃」などの、宝物として蓄えておく漆器類を指しており、日常の食事に使う道具を指しているわけではない。

²⁷ tumi sermak : sermak を「背後神、守護神」のように考えると、戦闘の際に力を貸してくれる神のようなものを指している気がするが、白沢氏自身の説明では「tumi sermak っていうのは、もしなにかで ukocaranke (裁判) やるでしょ。そのときに負けたらこれがかんべんしてくれって」(N9104061FN) ということで、良い「償い」の品になるような宝物を指しているようである。一方、鍋沢 (1969) には「kor katke mat/ tu po kor katu/ po utari/ huri nitnehi/ ko-eturenno/ tumi sermak/ ehoripi/ ki ruwene 妻と／二人の／息子たちと／魔の驚が／いっしょになって／戦のうしろで／足踏みをして／している」(p.525) という例があり、戦に力添えするものという意味で使われている。

²⁸ kama kama している：「話を飛ばして語っている」。「酒を注いで回っている女性」というのは姉のことだが、その話を先にしておくべきだったのを忘れていた、ということ。

<p>arikinne wen sampe kor pe ne ... aynu kat menoko kat kor ka somo ki. cinankopicici²⁹ esannotkewkor³⁰ wen menoko ne. mina kor pakisara³¹ ta pakisara pakno ka mina ruwe an katkemat ne korka, ene iki hi ne wa <wa> kimke kus pe wa ... kor kur ka isam. ahupkar kur ka isam pe ne wa, newaanpe ekinrakar wa, ociw kinrakar kinin kinrakar wa <wa> orowano ki iki ene kimke kus pe tusuesanke, tusuno p ne kusu, tusuesanke. pis ... piske kus pe tusueyanke wa, opokin a=kor_ yupi toykotata, toykohumpa kor an ruwe ene an h_i ne wa, wen pak puri³² ne sekor yaynu=an korka, sinen a=ne wa ene a=ye hi ka ene a=kar h_i ka isam w_a an pe a=ne ruwe ne." sekor kane <ne> hawean hawe a=nu kor, soyne=an w_a arpa=an w_a, at puyarotki a=kokkaeotke a=kakoturi wa inkar=an h_ike,</p>	<p>とても悪い心を持っていて 人間の姿、女の姿もしていない 顔が細長くて顎が突き出している 醜い女です。 笑うと口が耳元まで裂けて 笑う女性ですが、 こんなことをする人で 山手を通して…亭主もなく 嫁の貰い手も無いので そのことで物狂いになり 欲情の物狂い、淫情の物狂いを起して そこで 山のほうを通る者を巫術で呼び下ろし 巫術に長けているので呼び下ろし 浜のほうを通る者を巫術で呼び上げ 次々に私の兄が切り刻み バラバラにして いたので ひどいことをすると思っていたが 私一人では何を言うことも どうすることもできずに いたのでした」 などと（娘が）言うのを聞いて 私は表へ出て行って 窓の簾を膝で押し開け 隙間を広げて覗いてみると</p>
--	---

²⁹ cinankopicici : 「顔が細長く顎がとがっている」醜い女性を描写する際の表現

³⁰ esannotkewkor : 「顎が突出している」これも醜い女性の形容

³¹ pakisara : pakisar, -a は口元の入れ墨の、口角の先で尖らせた部分。

³² pak puri : バチエラー辞書に「Pak-buri, パクブリ, 罰スキ行為, 悪行. n Evil deeds. Deeds worthy of punishment」とあるが、これか？

sonno poka <ka>
 cinankopicici esannotkewkor
 wen menoko mina kusu
 hetari ka ki hepoki ka ki kor
 iyomare kusu <su>
 iku so uturu erutrutke³³ <ke>
 kor an ruwe ene an h_i ne wa,
 "tan kur kor emus enukar kusu
 na a=ruyke yak pirka.
 tan kur kor emus anak
 een kusu pirka korka"
 sekor kane cisekorkur ne noyne an pe
 hawean kor <kor>
 emus uwanpare opokin ...
 na uopokin emusihi nukare kuni utar
 ne cisekonnispa sama un
 emus kor wa uekarpa kor oka ruwe ne wa,
 "Sinutapka un kur neun asuru as y_akka
 eci=innerupihi eci=paye p ne kusu <su>
 nani a=tuye easkay.
 nani a=rayke easkay pe ne ruwe ne.
 Sinutapka un kur kor coy pep
 sinep kor kur ka,
 tumi sermak ne an pe ne na.
 arikiki wa tunas ... eci=inne na
 tunasno rayke wa ...
 eci=rayke wa eci=arki etokus ruwe ne na."
 sekor kane hawean kor,
 ikaspaotte kor an hawe a=nu hike,

本当に
 顔が細長く顎が突き出た
 醜い女が笑いながら
 頭を上げ下げしながら
 酒を注ぎに
 酒宴の席を回って
 いて
 「こいつの刀はなまくらなので
 もっと研いだほうがいい。
 こいつの刀は
 鋭くて結構だが」
 などと主人と思われる者が
 言いながら
 刀を点検し、次々に…
 次々に刀を見せようという連中が
 その家の主人のそばに
 刀を持って集まっていて
 「シヌタナカ人の噂がいかに高くとも
 お前たちは大勢でかかるのだから
 すぐに切ることができるだろう。
 すぐに倒すことができるだろう。
 シヌタナカ人の宝物を
 一つでも手に入れた者は
 それが戦いのお守りとなるぞ。
 頑張って早く…お前たちは大勢だから
 さっさと倒して
 やっつけて帰ってこれるだろう」
 などと（家の主人が）言いながら
 命令を下している声を聞いて

³³ erutrutke : e- 「～<場所>を」 rutrutke 「ずって移動する」。酒を注いで回るのに、歩いて回っているのではなく、膝立ちをして移動していることを表している。

wen kinra ne i=kohetari ki wa kusu,
 puyar'otki noskikehe a=kotametaye
 a=tuytektek hine orowa
 puyar kari ape etok ta terke=an
 ruwe ene an h_i ne akusu <su>
 ene tap ukoorsutke kor oka
 hawe okay pe ne a korka <ka>
 okkew kasi cinirarire.
 tas kus kuni maw kus kuni³⁴
 yaykoseske wa oka
 ruwe ene an h_i ne.
 wen iruska toy iruska a=ki kor,
 a=ki awosma ne kusu,
 sansintoko³⁵ piskanike
 a=cinuyruke hine <ne>
 a=uk wa puyar_ tuyka ta apa tuyka ta
 a=itakkote hawe ene an h_i <ni>
 "asinuma anakne yaunkur a=ne wa
 sinen a=ne wa <wa> a=i=rayke yakka,
 tumunci kamuy repunkur kamuy
 kor tumunci kamuy utar
 e orakse ku orakse³⁶ ne kusu,
 tan inne kuni p a=rayke kuni

むかむかと怒りがこみ上げたので
 窓の簾を真ん中から、刀を引き抜いて
 ぱっさりと切ると
 窓から上座に飛び降りた。
 すると、
 あんなに士気を高めあつて
 声を上げていたのに
 すっかりうなだれて
 息を
 ひそめている
 そこで
 激しい怒りが湧き起り
 中に飛び込むと
 酒宴の酒樽のまわりに
 足をまたがせて
 樽を持って窓に向かい戸口に向かって
 こう祈りの言葉を述べた。
 「私はヤウンクルであり
 私一人が殺されたとしても
 戦いの神、レブンクルの神
 彼らの戦いの神たちが
 食べたらず、飲みたらないだろうから
 この大勢の者たちを私が殺せるように

³⁴ tas kus kuni maw kus kuni : tas は「息」、maw は何かが起こす風を指すが、ここではやはり「息」。

³⁵ sansintoko : 「sansintoko っていうのは、こういうように、sintoko (行器) さ、こんなおっきい sintoko お酒、どぶ一斗くらい入るでしょう。そういうの、rorun puyar (神窓) の真下のほうに立てて、sakeiyuskur (酒宴の主賓) っていうえば、その sintoko の後ろさ、壁のほうさ座らせて、それがあの、一番なんていうか、その kotan (村) に魂のあるような、りこうなような人が、ねまらせるものらしいんだわ」(N9306021FN)

³⁶ e orakse ku orakse : orakse は「～に満足しない」。「食べたりない、飲み足りない」というのは、人間の命や血をということで、大勢のレブンクルについている tumunci kamuy たちが満足するためには、大勢の血が流されないといけないうらうということを行っている。

i=ekoinkar wa i=korpore wa ne ...	私を見守ってください。
ne wa ne yakne <ne>	そうしてくれれば
inne kuni p ne kusu,	これだけ大勢いるのだから
ney pakno kem rir sake kem rir_ tonoto	いつまでも血の酒の
esocuppa somo ki no	宴を終えることなく
ku easkay pe ne ruwe ne na.	飲み続けることができますぞ。
i=kopaksama osiraye wa	私の側について
i=kopaksama oinkar wa i=korpore yan."	私を見守ってください」
sekor kane itak=an kor	などと言いながら
puyar tuyka ta apa tuyka ta a=oytakkote.	窓に向かって戸口に向かって祈り
tumunci kamuy eun sake ... a=rura だか、	戦いの神に酒を運んだだか、
a=kure だか ruwe ne.	飲ませただか、した。
hine orowa, sintoko ani	そして、行器で
a=ecupkeskasi kapnekapne ³⁷ kor	ぐびぐびと腹を波打たせて
a=ku hine	酒を飲み
sintoko a=ohare hine orowa,	行器を空にして、そして
sakeyyuskur ³⁸ sapa ekari	サケイユシクルの頭に向かって
a=ekik hum konna taknatara ki akusu,	それでバキッとなぐりつけると、
nea sintoko nokan ko ne rupne ko ne	行器は小さな破片大きな破片になって
cusacari ki yak ...	飛び散ると…
ruwe ene an h_i ne akusu, cisekorkur	すると、家の主人は
"nep ruska kur ene iki hi ne ya?"	「何に怒ってそんなことをするのだ？」
sekor hawean wa kusu, kurkasike	と言ったので、そこに向かって
cisekorkur hoski kurkasike a=kotametaye.	先に私が主人に向かって刀を抜いた。
yupke tam kur a=koturi ruwe ne korka,	激しく刀で切りつけたのだが、
tam eok humi ka oar isam no <no>	刀がかすった様子もなく

³⁷ a=ecupkeskasi kapnekapne : e- 「(酒) で」 cupkes 「下腹」 kasi 「～の上」 kapne 「ぺちゃんこにする」。腹を波打たせながらごくごく酒を飲む様子を描写した表現と思われる。

³⁸ sakeyyuskur : 酒宴の場での主賓。「sakeyyuskur っていえば、その sintoko の後ろさ、壁のほうさ座らせて、それがあの、一番なんていうか、その kotan に魂のあるような、りこうなような人が、ねまらせるものらしいんだわ」(N9306021FN)

peker_ rera ne peker_ taskor_ ne
 ukohopoppa³⁹ wa oar isam
 ruwe ene an h_i ne wa,
 orowano cise or_ ta okay pe
 kurkasike a=kotametaye.
 orowano tam ka konna
 sikayekaye=an wa <wa>
 eronne hoyupu=an. eutunne hoyupu=an.
 cikir sak kuni p sapa sak kuni p
 a=rinosuye p sapa sak kur
 a=ranasuye p cikir sak kur
 kina hotarpa ekannayukar.
 i=kopasrota haw ene oka hi.
 "tan te or a=tuye kor⁴⁰_ nani ray pe,
 aynu ne hike cikir a=tuyapa kor
 ney pakno siknu wa okay pe ne hike."
 sekor haweoka kor,
 eutunne sikiru=an kor,
 eutunne sine apekes a=ureecari.
 eronne sikiru=an kor
 eronne sine apekes a=ureecari kor,
 cise uhuy hum kohummatki.
 orowano nep kamuye i=turen kusu
 kimun metotco metotco ka wa
 tan ruy rera sipoye rera cisanasanke.
 apa kari puyar kari ahun pe ne kusu,
 so ne kina kina kanraru rera soso

明るい風、明るい寒気のように
 飛び去ってしまった
 ので
 そこで家の中にいる者たちに
 刀を向けた
 そして刀を
 振り回して
 右座に飛び、左座に飛んだ。
 脚を失う者、首を失う者
 刀を上には振れば、首を失う者が
 刀を下には振れば、脚を失う者が
 草のように倒れ伏した。
 私をののしってこう言う。
 「ここ（首）を切ればすぐに死ぬものを、
 人間は足を切られても
 いつまでも生きているものなのだ」
 と言いながら（倒れた）。
 私は下座のほうを向くと
 下座のほうに燄を蹴り飛ばした。
 上座のほうを向くと
 上座のほうに燄を蹴り飛ばすと
 家の燃える音がごうごうと響く。
 何かのカムイが私に憑いているので
 山の上、山奥から
 激しい風、巻風が吹き下ろしてきて
 戸口から窓から吹き込んできたので
 床に敷いた蓑の端が風でめくられ

³⁹ ukohopoppa : 不詳。ukohopunpa ないし ukohoppa の言い誤りかとも思ったが、N9306021YR にも全く同じ表現が出てくる。

⁴⁰ tan te or a=tuye kor... : 主人公にとっては生まれて初めての戦いであり、非常に強いが戦い方についてはよく知らない。そのことを嘲って言うせりふである。

kayatek⁴¹ kunne cise onnay uhuy kor,
 (中断)
 so ne kina kina kanraru rera soso.
 kayatek kunne cise onnay
 esikannatki p ne kusu kotan eun kur
 "sake kar utar ku
 hawe ne yak a=ye a h_ike,
 makanak ne wa
 ene cise uhuy h_i ne ya?"
 sekor haewoka kor siruska kuni p
 puyar or_ ta ukomukemuke
 apa kari ahup kusu uka ta terke.
 apa or un hoyupu=an.
 ahup kuni p rekuci a=tuypa.
 puyar kari siruska kusu ahup kuni p
 rekuci a=tuypa.
 puyar or un hoyupu=an.
 apa or un hoyupu=an kane kor ki akusu,
 kor inu=an kusu,
 kotan kes wano nep w_a an pe
 pusrototo yakrototo ki humi ne ya <ya>
 kotan kes wano tumi an noyne
 yaynu=an kor,
 orowano, ki ayne tane anakne
 tan poro cise uhuyno wa,
 raptek kuni kotpoki ta soyoterke=an.
 inkar=an akusu
 cise okari tan inne kuni p uekarpa wa,
 oro mukemuke kor okay

帆を立てたように家の中が燃え上がり
 床に敷いた莫蔭の端が風でめくられ
 帆を立てたように家の中を
 飛び回っているの、村の人々は
 「酒を造った連中が酒宴をしている
 声だという話だったのに
 どういうわけで
 このように家が燃えているのだ？」
 と言いながら火を消そうと
 窓のところで押し合いへし合い
 戸口から入ろうと飛び乗りあう。
 私は戸口のほうへ走って行き、
 入ろうとする者の首を切り落とす。
 窓から火を消そうと入ってくる者の
 首を切り落とす。
 窓のほうへ走り
 戸口のほうへ走ってそうしていると
 聞こえてきたのは
 村の下端から何か
 爆発したか、破裂した音か
 村の下端から軍勢がやってくる
 ように思いながら
 切りまくっていると、そのうち
 その大きな家がすっかり燃えてしまい
 崩れ落ちる直前に外に飛び出した。
 見ると
 家の周りに大勢集まって
 押し合いへし合いしている

⁴¹ **kayatek** : **kayatek** 「帆柱」。風であおられた莫蔭が舟の帆のようにまくりあげられ、燃え上がって家の中を飛び回るとい情景描写。

ruwe ene an h_i ne wa,	ので
wen iyokunure toy iyokunure a=ki kor	おおいに驚きながら
orowano, kurkasike a=kotametaye.	彼らに向かって刀を抜いた。
orowano tumi=an ayne ...	そして戦っているうちに…
tumi=an ayne <ne> tumi hontom w_ano	戦っているうち、戦いの途中から
neun ne humi ne nankor y_a,	どういうことであろうか
a=siketoko tup ne arpa rep ne arpa ⁴²	目の前が散り散りになっていき
ruwe ene an h_i ne ayne <ne>	そのうちに
neun iki=an y_a ka a=eramuskari.	どうなったのかわからなくなった。
tu su at pakno ⁴³ ne nankor y_a,	二刻ほど経ったか
re su at pakno ne nankor y_a,	三刻ほど経ったか
mokor hetap ne ray hetap ne	眠っているのやら死んでいるのやら
a=ekonramu sitne kane	心がよじれ
tanak kane hine ... ayne,	もつれるような気持ちでいたあげく
yaysikarun yaymososo a=ki wa	意識を取り戻し気がついて
inkar=an akusu <su>	見ると
kotankonnispa sapa takupi a=tekkonoye	村長の首だけを手に巻きつけて
kimuy otopi a=tekkonoye	頭頂の髪を手に巻きつけて
sapa takupi a=esirkikkik kor an=an wa	首だけを地面に叩きつけているところで
mos=an ruwe ene an h_i wa <wa>	意識を取り戻し
wen iyokunure toy iyokunure a=ki wa,	おおいに驚いて
a=ki kor sinep ka siknu p oar isam no	いたが、ひとりも生きている者はおらず
opitta <ta> a=ronnu wa oar isam usi ta	皆殺しにしてしまったところで
mos=an ruwe ene an h_i ne <ne> wa	目が覚めて

⁴² a=siketoko tup ne arpa rep ne arpa : tup 「ふたつ」 ne 「となって」 arpa 「行く」 rep 「三つ」 ne 「となって」 arpa。この ne は転成格の格助詞。このように戦いの最中に前後不覚になるという場面はよく出てくるが、この話では、生まれて初めて酒をがぶ飲みしたので、ここになって酔いが回ったのだらうという解釈であった。

⁴³ tu su at pakno~ : 「そのときは、時計っていうものないから、鍋なら、煮えれば揚げるから、その時間見計らったことっていうの。ご飯鍋揚げたか、それからおつゆ鍋揚げたか、こう2回。1回か2回かかっていうとこだ」「おつゆ鍋だら、30分も、っていうような。見計らいの話だ」(N8806181FN) ということで、1時間かそこらという感じだらうということだった。

<p>kotankonnispa sapaha a=eyapkir hine a=osura. "neun an w_a ene Poyyaunpe a=rayke a=rayke sekor patek eci=haweoka somo ki yakun, eci=ray somo ki no eci=oka easkay pe ne ruwe ne hike <ke> ene an wen kewtum ene an wen_ sampe hoski hoski eci=kor wa <wa> newan pe kusu kasi a=opas wa ek pe a=ne ruwe ene an h_i ne wa <wa> kotan opitta a=uska wa isam ruwe ene an h_i ne korka, eci=wen w_a kusu aci=ekarkar⁴⁴ pe ne ruwe ne na. eramuoka yan." sekor kane itak=an kor pasirota=an kor ki ruwe ne korka, その "oro ta arpa wa ... arpa=an hoski ahun=an w_a a=tumam katkemat a=rayke wa isam a ruwe he an?" sekor yaynu=an wa <wa> a=rayke kuni p kewehe a=upispare wa inkar=an korka, ray ruwe ka oar isam ruwe ene an h_i ne wa <wa> sipiskaniohosari=an kor an=an akusu, oro ta toy tum w_a ne ya, nisor wa ne ya <ya> cihetukure.</p>	<p>村長の首を 投げ捨てた。 「どういふわけであんなに ポイヤウンペを殺す殺すとばかり 言いさえしなければ お前たちは死なずにいられた ものなのに あんな悪い心、悪い精神を 先にお前たちが持った から、そこに私が駆けつけて 来て 村中を滅ぼしてしまった のだが お前たちが悪いのだから こんなふうにしたのだぞ。 思い知れ」 などと言いながら 私はののしったのだが、 「(さっき) 行った 先には私が家に入って抱いた女性を 私は殺してしまったのではないか？」 と 私 私が殺した者たちの遺体を調べて みたが 死んでいる様子がない。 そこで まわりを見わたしていると 地面の中からか 空からか、姿を現して</p>
---	--

⁴⁴ aci=ekarkar : aci=は 4 人称主格・2 人称複数目的格の人称接辞。「私がお前たちを」。沙流方言だと aeci=となるところだが、千歳方言では aci=という形になる。

mina kane an w_a ki
 hawe ene an h_i. <ni>
 "asinuma anakne
 a=utarihi kor wen puri
 ki wen puri a=arkopankar
 a=arruska p ne wa kusu <su>
 Poyyaunpe ek wa kusu a=kasuy wa
 a=kotanu a=wente
 ruwe ne ruwe ne na. <na>
 ituypa p uype ituypa p sani
 a=ne ruwe ne na.
 i=rayke wa i=hoppa kusu ne na."
 sekor kane hawean
 ruwe ene an h_i ne korka,
 a=semkottanu hine orowa,
 "akkarino tumi=an y_akka
 tumunci kamuy a=kirorkasure ki wa
 wen ruwe ne kusu,
 a=kor_casi a=kohosipi wa
 sini rusuy pe a=ne ruwe ne na. <na>
 a=kor_casi casi or ...
 a=kor tumunci kamuy utar
 i=rura wa i=korpora yan. "
 sekor kane itak=an akusu
 suy kimun metotco metotco ka wa <wa>
 tan ruy rera cisanasanke,
 sipoye rera rera etoko
 ne katkemat turano
 a=i=ekosnekurpuni kane hine,
 orowano atuy tomotuye
 a=i=rura wa yap=an ayne <ne>

笑いながら
 こう言った。
 「私は
 一族の者の悪い所業
 悪い行いがとても嫌で
 腹を立てていたの
 ポイヤウンペが来たので手伝って
 自分の村を荒らした
 のです。
 人殺しの末裔、人殺しの子孫で
 私はあるのですから
 私を殺して行ってください」
 などと言う
 のだが
 私は聞かないふりをして
 「これ以上戦っても
 戦いの神を満腹にさせすぎて
 よくないので
 私の館に戻って
 休みたいと思う。
 私の館へ
 わが戦いの神たちよ
 私たちを運んでおくれ」
 と言うと、
 また山の上、山奥から
 激しい風が吹き下ろしてきて
 つむじ風の、風の先頭に
 その女性と一緒に
 軽々と持ち上げられて
 海を横切って
 運ばれて行くうちに

Ponrep kotan a=osirmukere.
 a=kor kotan i=koyayrikipuni kane
 yap=an ayne <ne>
 a=kor Sinutapka ta mimtar or_ ta
 a=i=rapte hine,
 orowa inkar=an ciki
 inne kuni p a=koyki
 ine hempak pa a=ki p ne kusu,
 rapokikehe a=unihi okari
 cikuni ka hetukpa punkar ka hetukpa wa
 a=unihi punkar ka kokarke kane siran.
 wen iyokunure toy iyokunure a=ki kor
 orano <no> punkartuypa=an.
 cikunituypa=an.
 ponmenoko ahun w_a orowano <no>
 cise or ka munnuwe a munnuwe a
 munkuta a munkuta a.
 ora cise okari ka a=kerkeri wa
 pirka cise a=yaykokarkar hine
 orowano oro ta <ta>
 pon katkemat turano an
 nispa a=ne wa an=an ruwe ene an h_i ne.
 orowano ekimne=an kor po anakne
 yuk cikoykip kamuy cikoykip
 rupne kamuy patek
 rupne yuk patek a=eawnarura.
 orowa cepkoyki=an kusu arpa=an kor_
 rupne cep patek nuwe a=koan w_a
 a=rura wa <wa>
 nep a=e rusuy nep a=kor_ rusuy
 ka somo ki.

ポンレブの村が見えなくなった。
 私の村のほうに飛ばされて
 陸に上がり
 わがシヌタフカの庭に
 下ろされた。
 見ると
 大勢の敵と戦って
 何年も経っていたので
 その間に私の家のまわりに
 木が生え、つるが生え
 家にはつるがからみついていた。
 たいそう驚きあきれながら
 つるを切り払い
 木を切り倒した。
 娘は家に入って
 家の中も掃き掃除をし
 ごみを外に捨て捨て
 家のまわりもきれいに掃除をして
 立派な家にした。
 そしてそこに
 娘と一緒に暮らし
 長者となって暮らした。
 山へ行くと、今までよりさらに
 シカやクマを
 大きなクマばかりを
 大きなシカばかりを獲ってきた。
 そして魚を獲りに行くと
 大きな魚ばかりをたくさん獲って
 持ってきた。
 何を食べたいとも何をほしいとも
 思わず

ne pon katkemat anak toyta wa <wa>
 tu pu epuni re pu epuni.
 nep a=e rusuy nep a=kor_ rusuy ka
 somo ki no oka=an ayne <ne>
 ponmenoko honkor hine,
 i=nenoko kane an hekaci kor_
 ruwe ene an h_i ne wa orano
 a=ukoomap a=ukoterkere kor
 a=ukoomap kor oka=an
 ruwe ene an h_i ne wa,
 rupne hike rupne okkayo po ne hike
 okkayo monrayke a=epakasnu.
 menoko ne hike
 a=macihi usa sarampe sapte wa
 sama o kor kemeyompa⁴⁵.
 kemeninu wa kemeyompa kor ... wa
 unuhu nukare kor
 "nepenepo eci=askay ruwe hioy'oy."
 sekor hawean kor omonnure a omonnure a
 omap a omap a wa hi ye p ne kusu,
 kor oka=an ruwe ene an h_i ne akusu,
 aykap kusu iki pa siri ne
 kunak a=ramu akusu,
 rupne hi opokin askay wa
 kar wa okay pe,
 tu imeru kur kotuytuyke,
 re imeru kur kotuytuyke.
 imeru us ikarkar patek
 ki pa ruwe ene an h_i ne.

あの娘は畑仕事をして
 二つの倉を立て、三つの倉を立て
 何を食べたいとも何をほしいとも
 思わずに暮らしているうちに
 娘は子供を宿し
 私とよく似た男の子を生み
 それから
 その子をかわいがり、取り合いをして
 ふたりでかわいがって暮らした。
 そして、
 大きくなった男の子には
 男の仕事を私が教え
 女の子には
 妻が布をいろいろ出して
 そばに置いてやると布を縫い縮めた。
 縫物をし、針で縫い縮めると…縮めて
 母親に見せると
 「なんとまあ上手なこと。ありがとうよ」
 と言いながらほめそやし
 かわいがりながらほめたので
 そのようにして暮らしていると
 みんな縫物が下手だと
 思っていたのに
 大きくなると次第に上手になって
 縫い上げたものには
 二つの光がよぎり
 三つの光がよぎり
 ピカピカした刺繍ばかり
 できるようになり

⁴⁵ kemeyompa : kem 「針」 e- 「〜で」 yompa 「〜を縮める」。まだ縫物がよくできないので、布を縫い縮めてしわくちゃにしてしまう。

okkayo po ne hike,
 ekimne a=tura wa <wa>
 “tan teor tanpe neno oka usi pekano
 kamuy ka <ka> rap.
 tan situ ... tan situ neno oka usi pekano
 kamuy payeka easkay ...
 payekay pe ne kusu,
 taan nupuri kohemespa するの
 situ kari hemespa situ から rap w_a
 taan nupuri hemespa するの hemespa.
 orowa oro ta cisekar⁴⁶ sekor yaynu usi ta
 cisekar wa okay pe ne
 ruwe ene an h_i ne kusu <su>
 tan pe neno oka usi pekano payeka=an kor
 pirka kamuy ka pirka yuk ka
 a=ronnu p ne na.
 eramuoka wa <wa>
 oro pekano ekimne yan.
 asinuma ney pakno aci=tura wa
 ekimne=an eaykap nankor.
 onne=an nankor kusu,
 ki p ne ruwe ne kusu,
 taan usi pekano eci=payeka wa ne yakne
 yuk ka pirka hike kamuy ka pirka hike
 eci=ronnu kusu ne na.
 orowa cepkoyki ne yakka
 tanpe neno cepkoyki=an kor
 pirka cep a=koyki
 easkay pe ne ruwe ne na.”

男の子のほうは
 私が山に連れて行って
 「これこれこういうところを通して
 クマが下りてくるのだ。
 このような尾根になっている所を通して
 クマが行き来できる…
 行き来するのだから
 この山を登るのも
 尾根に沿って登る尾根に沿って下りて
 この山を登るのも登る。
 そこに家を作ろうと思うところに
 家を作って
 いるのだから
 このようなところを歩き回れば
 立派なクマでも立派なシカでも
 獲ることができるのだぞ。
 よく理解して
 そういうところで狩りをしなさい。
 私はいつまでもお前たちを連れて
 山に行くことはできないだろう。
 年をとるだろうから
 そうなるだろうから
 このようなところを歩き回れば
 シカでもクマでも立派なのを
 獲ることができるのだぞ。
 それから魚獲りも
 このように魚獲りすれば
 よい魚を獲ることが
 できるのだぞ」

⁴⁶ cisekar : 「家を作る」。この場合はもちろん、クマが冬ごもりのための巣穴を作ること。

sekor cepkoyki=an ka	と、魚獲りも
cepkoyki ka a=epakasnu kusu	魚獲りも教えに
a=tura wa omanan=an pe ne kusu,	連れて歩き回ったので
orowano nepenepo i=koraci	なんともはや私同様
ekimne ka easkay pa wa	狩りもできるようになって
pirka kamuy ronnu wa sap wa	立派なクマを獲ってきて、
a=e kor oka=an	食べて暮らして
ruwe ene an h_i ne akusu <su>	いたところ
okkayo ne hike rupne hike	男の子も大きくなったものは
orowano cisekar cise,	家を建てて
a=unihi okari cisekar=an w_a,	私の家のまわりに家を建ててやって
oro ta <ta> pirka katkemat	そこに良い女性を嫁に
a=etun w_a a=korpore. orowa,	もらってやり
katkemat ... katkemat ne hike ka	女性（娘）のほうも
cisekar=an w_a <ma>	家を建ててやって
oro ta pirka kewtum	そこに良い精神の
pirka nepki ka easkay okkaypo utar	仕事がよくできる若者たちを
a=numke wa a=korpore hine	選んでやって
urapokkari ⁴⁷ siri ka isam.	人並みの暮らしをさせてやった。
a=poho utari ne yakka	子供たちも
ikokowne utar_ ne yakka,	婿さんたちも
urapokkari siri ka isam no <no>	人に劣ることなく
ekimne ne yakka easkay.	狩りもでき
cepkoyki ne yakka easkay.	魚獲りもでき
toyta ne yakka easkay	畑仕事もできる。
katkemat utar ne yakka toyta easkay wa	女たちも畑仕事できて
tu pu epunpa re pu epunpa.	ふたつも三つも倉を立て
nep e rusuy nep kor_ rusuy ka	何を食べたいとも何をほしいとも
somo ki pa p ne kusu, iraye wa sap kor	思わずに、獲物をしとめて山を下りると

⁴⁷ urapokkari : (大勢いる中で) おちぶれてみじめな生活をする。

"poro iraye= an w_a sap= an ru ne na.	「たくさん獲って下りてきましたよ。
a= onaha onkami yak pirka na."	父さんお祈りをしてください」
sekor kane hawas kor arpa= an w_a <ma>	と言うので、でかけていって
onkami ka = an ⁴⁸ .	お祈りもしてあげる。
inawke ka a= eykasuy wa <wa>	イナウを削るのも手伝ってやり
kamuy pirvano a= hopunpare wa	カムイを丁寧に送って
a= poho utari a= epakasnu kor an = an ayne,	息子たちにやり方を教えているうちに
tane anakne asinuma ka onne = an .	もう私も年をとった。
kemapase= an pe ne kusu <su>	脚が重くなったので
a= i =tak somo ki hieka	呼ばれて出ていくこともなくなったが
keraan pe supa kor anpa wa arki wa	おいしい料理を作って持ってきてくれ
pirka ipe patek a= ki kor an	うまいものばかり食べて
nispa a= ne ayne,	長者としてくらしているうちに
asinuma ka a= macihi ka	私も妻も
tane onne kemapase ruwe ene an h_i ne.	もう年老いた。
tun a= ne wa kemapase= an	ふたりして脚が重くなった
ruwe ene an h_i ne korka,	けれど
a= poho utari i= pirkareska .	息子たちがよく世話してくれる。
a= matnepoho utari *i= pirka ...	娘たちもよく…
i= horkarespa wa,	親孝行をしてくれて
pirka ipe patek ki kor okay utar	おいしいものばかり食べて暮らして
a= ne ruwe ne hi	いることを
a= eramuan kor onne = an ruwe ne kusu	心に刻みながら年を取ったので
a= eysoytak kor onne = an hawe ne na.	その話をして天寿をまっとうするのだ。
Sinutapka un nispa isoytak.	シヌタフカの長者が語った。

(なかがわ ひろし・千葉大学人文社会科学研究所)

⁴⁸ **onkami ka =an** : **onkami=an ka ki** とも言い換えることができるはずだが、人称接辞 **=an** が動詞に直接後接せず、副助詞を挟んであたかも自立語のように後置される表現。=**an** の clitic「接語」としての性格を表す現象と考えられる。他の話者にも見られるが、特に白沢氏においては顕著に現れる。

Ainu Folklore Text-12

Nabe SHIRASAWA's *yukarirupaye*,

“The Sinutapka man who got a girl from his enemy as his wife”

NAKAGAWA Hiroshi

Summary:

This text was told by the late Ms. Nabe Shirasawa (1905-93, born in Chitose), on April 06, 1991. *Yukarirupaye* means “yukar in prose”. *Yukar* “heroic epics” is usually recited in verse on melody, but in Chitose women had been inhibited to recite them on melody so that they had been telling them in prose, Ms. Shirasawa said.

Outline of text:

I lived at Sinutapka all alone. One day morning I felt a feeling someone tried to kill me, but I found no one around me. I thought it must have been the omen that someone wanted to assault my village. I planned to attack them before they would, then opened a box tightened with six strings and took out a god's armor, a god's sword with a curved dragon on the sheath and a metal helmet with a figure of a cuckoo on the top.

Wearing them I went out on the ground and danced reciting prayers for my guardian god. Then from a deep mountain blew the strong wind and I flew up on it. I flew over the sea and finally landed on a harbor, there finding a big village called Ponrep. I went to the biggest house, which might be the chief's one, and heard the sound of feast from inside. Then I went around the house and found a beautiful small house. I looked into the window and found a beautiful girl sleeping in a bed. I walked into the house and sneaked in her bed. She woke up and got astonished by seeing me, but then we loved each other.

She said that her elder sister was very wicked woman. With her magic she seduced men passing through by the village into her house and that her brother, the chief of the village, killed them. Hearing it I went to the chief's house and looked into it. Her sister walked around serving wine to the people and the chief said,

“The Sinutapka man is rumored as a very strong man, but we can kill him since the number of us is so great. The one who can get any of the Sinutapka man's treasure, could get a talisman for battle.”

I got angry and entered the window. I stood straddling a vessel of wine. Reciting prayers for the enemy's guardian gods not to help them but to help me, I swallowed the all of the wine, then I hit the head of the main guest with the empty vessel. I fought the enemy with my sword, cutting their heads or legs. The ones who lost their legs cursed

me for not knowing how to kill human beings. I kicked off the embers in the hearth and then from the deep mountains a strong wind blew down so that the mats flared up and flied around in the house like as sails of yachts.

I ran out of the house before it collapsed then I fought the enemy surrounding the house. While I was fighting, somehow I blacked out and when I became conscious again I found myself having killed all the people and holding only the head of the chief, striking it on the earth. As I was afraid that I had killed the girl I loved, too, I inspected the corpses but couldn't find her. Then from somewhere she popped out and told me to kill her since she was a descendant of murders. I ignored her words and riding on the wind made by my guardian god with her, we flew back to Sinutapka.

I married the girl and had many children. I taught the boys how to hunt bears and deer and my wife taught the girls how to sew and embroider. Grown up they became good hunters and sewers and I got for them beautiful girls and good lads as their spouses. Thanks to them we could get everything we needed and wanted all our life. Now my wife and I became so old that I'll leave this story to my descendants.

So told a wealthy Sinutapka man.